

統計と確率 (3) -仮説検定-

https://l-hospitalier.github.io

<mark>【統計と確率】</mark>統計は与えられた条件で事象のパラメータ (変数) を集積する作業。 判 定は通常は危険率 p (確率)。 小針によれば「先験的な**確率**というものがあってそれ を追求するのが確率論・・ではなく、何を持って同等に確からしいとするか、は case by case に、事実に即して選択決定すべき・・。 1組のデータ(標本集団)が与えられた とき母集団の平均を推定し、仮説を検定する。 正か否かは確率の問題。 【仮説検定】 仮定とそれに続く論理の連鎖が数学。 論理がおかしいのは論外! #36 で「2005 年に 米食品医薬品局(FDA)は非定型抗精神病薬が高齢の認知症患者の死亡率を 1.6~1.7 倍に高めていると警告」に対し某学会の新井教授らが「有意差はないが非定型向精神薬 使用群で死亡率が低い結果が出ている」というトンデモ反論を行った。 平均値の有意 差検定は帰無仮説で「平均値に差がない」ということが(5%の誤りがあるかもしれな いが)「**否定された**」という論理で**帰無仮説の否定*1。 帰無仮説の肯定は無**に帰す。「自 分たちの統計では有意差が無い」は完全な論理無視の**無意味**(平均値に差があることへ の言及はない)。 有意差のないデータは元の FDA の標本数を分割、大幅に減らせば有 意差の無いデータになる。 統計入門書*2には野菜売場の大根の例がある。 標本の長さ の平均値(50 cm)が練馬農協から出荷した大根の抽出標本と全く同じであっても、そ の大根が練馬農協出荷の理由にはならない。 練馬では 1 m の大根が収穫されたことは ないが温暖化で1mの大根が生産されるかも? 野菜売場の大根が長さ1mの時、初め て「ある危険率(例えば5%)で練馬産大根ではなく、他の(熱帯?)農協で収穫され たのでは?(差がある)」と言える。「差がない」と言うには統計以外の方法(練馬 農協産のラベルなど)による。 「**仮説検定**は**帰無仮説の否定**」という論理の連鎖を無 視する学会幹部の統計の理解にはびっくり。 後日談で 2013/12/19 に左下図のように FDA のデータと並べて J-CAITA のデータでは差がないと主張していたが 2016/6/15 に 突然右下図のように J-CAITA のデータでは BPSD(Behavioral and psychological symptoms of dementia) への抗精神病薬開始で死亡率 2.5 倍というデータを公表!

#281

死亡率は非投与群と有意差なし

大規模調査は、わが国の高齢アル ツハイマー型認知症患者約6.000例を

る米食品医薬品局(FDA)警告(2005 年)の根拠となったデータは、AAP 投与群の死亡率3.5%。プラセボ群

BPSDへの抗精神病薬開始で死亡率2.5倍【JSPN112】

1 間道ニュースリストへ

ツィート

〈表〉抗精神病薬投与による死亡リスク(FDA警告の根拠となったデータとJ-CATIAの中 間解析結果)

			解析1.		解析2.	
	FDA輩告		J-CATIA		J-CATIA	
	実業群 (非定量 抗精神病薬)	プラセボ群	投与群 (非定型 抗精神病薬)	非投与群	投与群 (非定型 抗精神病薬)	非投与群
死亡率	3.5% (118/3,353例)	2.2% (41/1,851例)	0.88% (18/2,055例)	1.0% (29/2,980例)	1.2% (25/2,136例)	1.0% (29/2,980%)
オッズ比	1.54		0.899		1.205	

(J-CATIAの研究代表者である新井平伊氏の了解の下、繁田雅弘氏より提供)

世界初・日本発の大規模前向き研究J-CATIAの成績

2016年6月15日 日本精神神経学会 カテゴリ: 一般内科疾患・精神科疾患・神経内科疾患

日本人のアルツハイマー型認知症(AD)患者約1万例を対象に高齢者の認知症周辺症状(BPSD)へ の抗精神病薬と死亡の影響を検討した、初の前向き観察研究J-CATIAの成績が最近報告された。「1 万例を対象とした前向き検討は世界でも初」と話す研究グループの順天堂大学精神医学講座教授の 新井平伊氏。千葉県で開催の第112回日本精神神経学会学術集会(JSPN112、2016年6月2-4日)シン ポジウムで、同試験の主な結果と実地臨床でのフィードバックを解説した。観察研究のため因果関係 は不明だが、同試験では、抗精神病薬を新規投与された群で非投与群に比べ、試験開始から11週以 降の死亡リスクが約2.5倍上昇していたなどの成績が示された。

^{*1} 命題<平均値に差が無い → 言えない>の<mark>対偶</mark>は<差があると言える → 差がある>。<mark>逆</mark>は「(平均値に差がないと) 言えない → 差がない>。 逆は真とは限らず。 対偶、裏、逆は高校数学。 ^{*2} 薩摩順吉著「確率・統計」岩波書店の p145 を勝手に脚色。 学生に<単位をあげないとは言わない>という命題は<単位を上げる>事への言及が無いので無 意味。 2 重否定命題は否定された時のみその対偶が意味を持つ。